

の感じてあつた。

△用具としては、擦筆といふものが入用である、擦筆は、セーム皮を細く巻きたるもの、また吸取紙新聞紙の如きを細く切りて巻き、先を尖らして用ひる。これ等は彩料店に販賣してゐる。其他、チヨーク挟み、チヨークを尖らすため、又は磨つて粉にする爲めの紙石盤、及び軟らかきゴム等である。

△紙は水貼にする方がよい。輪廓は鉛筆畫の時と同様、硬い鉛筆がよい、チヨークを石盤にて磨り、粉となして、擦筆の先へ着け、濃い處から畫いてゆく、時として淡い處から畫く事もある。擦筆は細いのと稍太いのと、二三本は使用せればならぬ。極濃い處や、細くして強い線などは、チヨークを其儘使ふ、淡い處をボカスのは、新しい擦筆で漸々擦り取る、又はゴムで消して其跡を擦つておく。

△物によつては、擦筆を用ひずチヨークの先ばかりで畫き上げることもある、擦筆を用ゐるとオチツキが出来て穩やかになり、チヨークばかりで畫くと勢のある強い感じが出る。
△畫きあげて後は、ファイキサチフでとめる。

チヨーク畫

鉛筆の外にチヨークと稱する墨色の筆あり、これは煙墨から製したもので、鉛筆よりも黒く色が出る。使用するには黄銅にて製したる「ポルトクレヨン」に挿むので、使用は鉛筆と同じであるが、一度着けた墨痕は、鉛筆の如く容易に消し去ることが出来ない、故にこれを使用するのは、鉛筆畫の練習が充分に出来た後がよい（丸山晚霞氏『女性と趣味』）

*

*

*

*

*